



2021 年度
第 2 号

体育市民連帯 ニュースレター

1
大韓体育会長、
誰を選ぶのか？



2
大韓体育会長選挙、
最初の討論会で
候補 4 人支持訴え



3
大韓体育会長
選挙討論会、
どの候補が目を引くか



大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？



01 SBS ニュース 2021.1.8

大韓体育会長、誰を選ぶのか？



韓国体育人は誰を大韓体育会長に選ばなければならないでしょうか？ 今回立候補した4人の候補者は、それぞれ長所と短所も持っていて、どの人が優れていると言うことは難しいというのが大半の意見です。結局、候補者の面々を徹底的に把握し、少しでもより良い候補を選択するしかありません。私はこれまで多くの国内体育取材しましたが、4人の候補について彼らが言う共通点を要約すると次のとおりです。

まず李ギフン現大韓体育会長です。体育人の中で好き嫌いがはっきり分かれる人物です。驚異的な親和力と「扁平足（訳注：日本語の「顔が広い」は韓国語で「足が広い」と表現される）」と呼ばれるほどの豊富な人脈は彼の代表的な利点に数えられます。このような武器を前面に出して、彼は容易に取りにくい予算を確保して各競技団体の職員の給与を引き上げました。数百億ウォンをかけて全南の長興に建設している体育人教育センターも彼の業績として評価されます。大韓水泳連盟会長と2012 ロンドンオリンピック選手団長、大韓体育会副会長などを経て、スポーツ界での様々な懸案に精通したうえ、政府に対抗して大韓オリンピック委員会(KOC)の分離に絶対反対するほどの馬鹿力も持っています。現職の国際オリンピック委員会(IOC)委員という点も強みです。

しかし、会長在職時に発生した「ショートトラック趙ジェボムコーチ事件」と「故崔スクヒョン選手事件」は代表的な減点要因に数えられます。不正な行いをした者への「軽い」罰で暴力と性暴力を根絶させなかったという批判も受けています。一言でスポーツ界革新と人権保護の意志が不足しているのではないかという指摘を受けているのです。

早くに出馬を宣言したカン・シヌク檀国大教授は李ギフン会長とは相反する面を持っています。ホッケー出身で指導者と大学教授の両方を経験し、体育の現場と理論、政策にあまねく本格的だというのが強みです。穏やかな人柄に合理的な業務処理でスポーツ界関係者と円満な関係を維持しています。欠点は、知名度と重量感が落ちるということです。つまり「外圧」から大韓体育会を守って予算を多めに確保するには、政官界を動かす力があるべきだが、このような点で不安だという指摘です。

早くに出馬を宣言したカン・シヌク檀国大教授は李ギフン会長とは相反する面を持っています。ホッケー出身で指導者と大学教授の両方を経験し、体育の現場と理論、政策にあまねく本格的だというのが強みです。穏やかな人柄に合理的な業務処理でスポーツ界関係者と円満な関係を維持しています。欠点は、知名度と重量感が落ちるということです。つまり「外圧」から大韓体育会を守って予算を多めに確保するには、政官界を動かす力があるべきだが、このような点で不安だという指摘です。

最高齢のユ・ジュンサン候補は特異な経歴を持っています。4選国会議員出身として与野党を行き来しながら政治活動を広げ、李ギフン会長に劣らず「知人」が非常に多いです。79歳という年齢が信じられないほど「鋼鉄体力」も持っています。インラインローラー連盟会長、大韓ヨット協会会長を経てスポーツ界と着実に縁を結んできて、スポーツ界の弊害について鋭い視点も保有しています。しかし、50代以下の選挙人団には知名度が落ちるうえ、いわゆるスポーツ界の「主流」ではなくて全国的な「支持勢力」を結集するのに困難があるというのが大半の意見です。

10年間大韓バスケットボール協会長を務めた李ジョンゴル候補は最高名門出身の「金のさじ（訳注：裕福な家庭に生まれた人。親の七光り）」と呼ばれます。京畿高校とソウル大法学部を卒業したエリートで5選国会議員を過ごし知名度と重みが最大の強みです。また、現政権と緊密な関係を結んでおり、当選した場合、誰よりも政府の協力を引き出すのが簡単です。しかし、候補登録を控えて彼が見せた行動は大きな減点要因です。事実上ジャン・ヨンダル又石大名誉総長の「代打」として最も遅く出馬宣言をした後、翌日の午前には突然出馬を断念してカン・シヌク候補を支持したが、その日の午後5時56分に登録締め切りを4分残してようやく候補登録を終え、理解するのが難しい「一進一退の動き」にスポーツ界を無視しているのではないかという激しい批判を受けたからです。

1920年に発足した大韓体育会（当時、朝鮮体育会）は、いつのまにか100歳を超えました。今回選出される大韓体育会長は新しい100年の青写真を提示しなければならず、エリートスポーツ、生活体育、学校体育の3輪の好循環、体育会の財政自立など多くの課題を先頭に立って解決しなければならない重大な課題を抱えています。今回の選挙が持つ重要性がこれまで以上に大きいのもこのためです。残り10日間、投票権を持っている2千170人の選挙人全員が鷹の目で4人の候補を綿密に観察して賢明な判断を下すことを期待します。

出典：https://news.sbs.co.kr/news/endPage.do?news_id=N1006161392&plink=ORI&cooper=NAVER

02 SBS NEWS 2021.01.09

大韓体育会長選挙、最初の討論会で候補4人支持訴え



記号1番李ジョンゴル候補、2番ユ・ジュンサン候補、3番李ギフン候補、4番カン・シヌク候補は先月30日から始まった公式選挙運動期間で初めて開かれた政策討論会において、それぞれの強みを強調し、YouTubeでの討論会を見た選挙人団に自分を選んでもらいたいと力説しました。

順序で最初に発言したユ・ジュンサン候補は大韓ローラースポーツ連盟会長、大韓ヨット協会会長、大韓ウルトラマラソン連盟名誉会長などを務めた履歴を取り上げ、自分を「永遠の体育人」として紹介しました。ユ候補は「体育庁を新設して体育人の処遇を改善し、指導者人権センターを介して忍耐力を備えた指導者を選抜して、継続して教育する」と言いました。

続いて「政府支援から脱却して体育会自体の収益創出に焦点を合わせるように、全国民1種目に参加するシステムを構築し、生涯管理財政を拡充して体育福祉の向上の新しいシステムを構築する」と力説しました。

国際オリンピック委員会（IOC）委員であり現体育会長再選に挑戦する李ギフン候補は「過去4年間体育人の自尊心を回復して体育人の処遇を現実に合わせて改善するように努力してきた」と前置きしました。

続いて「IOC委員として今年10月にソウルで開かれる国家オリンピック委員会総連合会（ANOC）総会、2024

年江原冬季ユースオリンピック、2032年の南北夏季五輪の共同誘致を必ず成功させる」と力説しました。李会長は再選したらスポーツ人権事態と各種積弊を清算する監察部門を会長直属で設置する予定であり、学校体育の正常化、KOC分離ではなく大統合などを課題として提示しました。

5選国会議員を務め、民族和解協力汎国民協議会（民和協）代表常任議長を務めた李ジョンゴル候補は「新型コロナウイルス感染症（コロナ 19）で絶体絶命に置かれたスポーツ界を蘇生させようと出馬した」とし「危機は政府、国会と疎通できる強力なリーダーと強力な対策が必要だ」と現与党に近い自分の強みを挙げました。

李候補は人権オンブズマン制度の導入、利用者が容易に登録できる生活体育オンラインプラットフォームの構築、地方体育会支援事業団の新設を公約として提示し、「率直で道徳的な人だけが強力なリーダーシップを発揮できる」とし、李ギフン候補と自分を対比しました。

ホッケー選手と指導者、学者、スポーツ行政人等をあまねく勤めたカン・シヌク檀国大国際スポーツ学部教授は、「正統体育人としてスポーツ界の問題を詳細に知っている」とし、他の三候補との差別化を浮き彫りにしました。

カン候補は「現在スポーツ界の危機は、システムではなく人の問題」と道徳の問題に包まれた現執行部役員交代を強く主張して人権常時監視システム稼働、体育近隣施設の拡充、文体部予算の地方体育会直接交付、体育会と地方体育会の勤務循環制などを解決策として出しました。

出典：https://news.sbs.co.kr/news/endPage.do?news_id=N1006164192&plink=ORI&cooper=NAVER

03 亞洲經濟 2021.01.10

大韓体育会長選挙討論会、どの候補が目を引きか



9日午後2時頃、京畿道高陽市にあるピンマル放送サポートセンターで第41代大韓体育会長選挙の候補者政策討論会が開かれた。

討論会には、李ジョンゴル（64・記号1番）、ユ・ジュンサン（79・記号2番）、李ギフン（66・記号3番）、カン・シヌク（66・記号4番）候補が出席した。まず全員の発言を皮切りに、共通の質問、集中討論、

まとめ発言の順に進行した。全員の発言では4候補の立候補理由と抱負を確認できた。

〈共通質問〉「スポーツ界の悪習根絶」、「生活体育への参加率拡大」、「地方体育会との共存」

1. 「スポーツ界の悪習根絶」

李ジョンゴル候補=「スポーツは国民の誇りである。正々堂々と最善を尽くさなければならない。これまで故崔スクヒョン・趙ジェボム事件当時、大韓体育会は無能で無責任だった。誤った慣行を改善する」

ユ・ジュンサン候補=「反省しない組織は成功できない。メダル至上主義ではなくスポーツの価値を追求しなければならない。体育会の管理・監督不在が大きかった。人格教育センターを作る」

李ギフン候補=「恐縮に思う。組織文化を変えていく計画である。全羅南道の体育教育センターを建設する予定である。悪習を根絶予防する」

カン・シヌク候補=「悪習が多く取り上げられている。指導部が健全でなければならない。事後処理ではなく予防が重要である。監視システムを稼働する必要がある」

2. 「生活体育への参加率拡大」

李ジョンゴル候補=「活性化が問題だ。生活体育オンラインプラットフォームを作って手軽に利用できるシステムを構築する。ニュースポーツ種目も入れるようにする。地方体育会と自治体の連携が必要である。所得控除も推進する予定である」

ユ・ジュンサン候補=「体育施設の確保、指導者、動機誘発などが必要である。運動するスペースがないのでスペース確保も必要である。施設を拡充してこそ雇用創出の機会が増える。生活体育人が参加できる空間を確保する」

李ギフン候補=「インフラの構築が重要である。予算に限界がある。学校施設を共有して使う。システムを作る。非対面「家こもり」プログラムを作成したが、反応が良かった。様々なプログラムを開発したい」

カン・シヌク候補=「10人のうち6人が定期的に生活体育をしている。人口1%を増やすことも簡単ではない。指導者を養成して配置することも重要である。地域マイレージ制度を用意する。エリート選手を配置すること」

3. 「地方体育会との共存」

李ジョンゴル候補=「体育も自治時代が来た。意思決定、予算なども権限を持たなければならない。地域体育振興法を用意しなければならない。水平的な関係が必要である。緊密な協議と共同の努力が必要だ」

ユ・ジュンサン候補=「政府予算に依存した慣行から脱却しなければならない。財政的自立が必要である。収益創出に焦点を合わせなければならない。全国民1種目参加の後援システム、体育会職員派遣で地方体育の意見開陳を進めたい」

李ギフン候補=「ベースは財政である。安定的に進めることが肝要である。教育予算を配るように予算を確保して配らなければならない。独立、自主的に地域の特色に合わせて運営できる。現在体育会の権限がない。死角だ。一緒に協力して進まなければならない部分である」

カン・シヌク候補=「重要なことは、尊重して認めることが急務である。冷遇される団体があってはならない。権限と予算の割り振りが必須だ。20%以上を体育会役員にする必要がある。循環勤務制度を活性化しなければならない」

〈集中討論〉李ギフン「KOC分離」、カン・シヌク「危機に追い込まれたエリート運動部」、李ジョンゴル「4年の集中課題」、ユ・ジュンサン「財政自立」

最初に李ギフン候補が「KOC分離」について論じた。彼は「完璧な制度は存在しない。二面性がある。体育人自らの自律と自主が必要である。統合体育会4年である。あまりにも早い。分離で解消はされない」とし、「1966年の孫基禎先生の帰国」を例に挙げた。(訳注：1936年ベルリン五輪マラソン金メダリスト。1966年アジア大会で韓国代表団長として参加した)

カン・シヌク候補の「メダル取る機構を除き、基礎を忠実にする事が良いのではないか」という質問には、

「分離による非効率がひどい。ドイツも統合だ。管理コストも倍増する。もう少ししてみようという意味だ」とした。

李ジョンゴル候補の「分離が能ではない。独断と独善に対してスポーツ革新委員会から勧告を受けた。分離も意味がある」という質問には、「同意することができない。スポーツ革新委員会は法ではない。専門家は時期尚早と見た。統合4年、ようやく安定してきたのに、また分離したら消耗である。二つを通じて合意点を見いだす」と答えた。

ユ・ジュンサン候補の「李ギフン候補は統合だけに比重を置いている。政府との対立はあってはならない」という言葉には、「葛藤はない。大韓体育会長が何の声も出さなかったらだめだ。未来100年の基盤を作るという議論をたくさんした。意見を調整すべきで、再び分離することは意味がない」と話した。

二番目にカン・シヌク候補が「危機に追い込まれたエリート運動部」について論じた。彼は「金メダルを取ることを重視しないという言葉ではなく、取る方法を変えようということだ。これは、エリートの生き方」と述べた。

李ジョンゴル候補の「選手を発掘して育てることに焦点があるようだ。危機に陥った大学等を地方体育特性化大学に転換して選抜して育てている」については、「選手を育成して発掘するのは簡単な問題ではない。10人のうち7人は後に追い出される。学校運動部が経営者によって制限を受ける場合がある。一車線ではなく二車線でいくことがいいと思う」と答えた。

ユ・ジュンサン候補の「カン候補は少年体育典に反対をしている。私は廃止に反対する。数年間、負担が重くなった試合によって危機論が台頭している」については、「少年体育典廃止に反対した。競技力退化や低下の部分は課題である。改善策が必要である。選手たちの学業を高めようという意味ではなく、社会生活ができるように助けようという意味だ。“なぜ運動だけしようとする者を変な方向に導くのか”というが、そうではなく、最小限の事だけはしようというものである」と述べた。

李ギフン候補はすべての発言のうちカン候補が話した「ゴルフ始打」の部分を先に指摘した。彼は「ゴルフ始打は2万人以上の恵まれぬ後輩選手たちのための義援募金だった。始打だけしてきた」と話した。続いて彼は「選手は少年体育典と国体などを経て、エリートとして育てられる。競技をやめようという話などは理解できない。選手需給をどうするのか。カン候補はスポーツ革新委員会の発起人として参加した人だ」と述べた。

これに対してカン・シヌク候補は「発起人として参加したことはない。最小限の学習はどうだろうか」と勧告したものである。適切に読んで反論すべきだ。ならば大韓体育会はどのような部分を進めたのか問い直したい。不行き届きだったと言える」と反論した。

李ジョンゴル候補の「4年集中課題」に続いた。彼は「4年間の決算も重要である。李ギフン候補は資格審査があったら候補登録さえできないところだった。懲役に服したりもした。公共性が強い体育会に前科者が

いるのは変だ。子の偽装就業などの問題がある」と発言した。

これにユ・ジュンサン候補は「そのような話が事実であれば問題が広がる可能性がある。体育会定款に欠格事由がある。今回の選挙では、なぜ抜けたのか気になる。共感する部分」とした。

このような流れに李ギフン会長は「偽のニュースだ。提訴する」と反論しながらも「教育が最も重要である。雇用財政の確保が重要である。どのように克服するつもりなのか気になる」と投げかけた。この質問に李ジョンゴル候補は「いくつかの犯罪事実がある。全体的な有罪で追徴までになった」と答えた。

カン・シヌク候補は「4年集中課題」に集中した。彼は「指導者、事務局職員等の経済的処遇が改善されなければならない。200万ウォン以下の給料を受けている。お金を稼ぐことができるシステムを作らなければならない」と論じた。

これに対して李ジョンゴル候補は「瑞草区役所などは財政の良いところにもかかわらずスポーツ団を構成している。体育会は何の動きもない。ゆとりを作らなければならない。仕事を一つ一つ作って行かなければならない」と強調した。

最後に、ユ・ジュンサン候補の「財政自立」につながった。彼は「財政自立と福祉の確立が重要である。国庫から出てくるお金で運営してはならない。ビッグデータ、中継権、マーケティングなどで財政を確保しなければならない。スポーツトトなどを活用すれば、国家予算に依存しないようにできる」と主張した。

李ギフン候補はこれに共感した。彼は「スポーツトトの配当を50%に上げると3500億ウォン程度受けることができる。これを持って市町村団体、雇用創出などに配分して使用する必要がある。全国220万人からの署名を受け国会議員20人の同意を得た。通過すれば基本的な部分は解決される」と述べた。

カン・シヌク候補も共感した。彼は「財政自立は重要な部分である。ただしスポーツトトなどを引いて来るのが容易ではない。ビッグデータセンターを作成する。検索エンジンがお金を稼ぐ原理と同じである。体育会ができないことはない」と話した。

一方、李ジョンゴル候補は現実的な部分を強調した。彼は「国家との関係も良くしなければならない。独立をしっかりと確立しなければならない。直接・間接的な収益創出が必要である。予算の安定性を確保することが重要である。スポーツマーケティング、中継権など収益が必要だ」と説明した。

これに対してユ・ジュンサン候補は「予算を多く持って来ればいい。しかし、独立しようとしたら創造性を持って目を向けなければならない。“ユーラシア横断ラリー”のようなことも大きな利益を出すことができる」と答えた。

〈まとめ発言〉

まとめ発言で李ジョンゴル候補はリーダーシップを強調した。彼は「危機に強いリーダーシップが必要である。体育会が強力な力を持たなければならない。政府・国会とのコミュニケーションも重要である。予算と緊急体育支援金を持って来なければならない。雇用、文化の変化、外交も重要である。2032年オリンピック誘致も重要な部分である。体の中に体育の血が満ちている。TFチーム（訳注：task force team 対策本部や専門委員会）も作らない船長を交代しなければならない。変化が必要だ」と話した。

ユ・ジュンサン候補は「財政自立と福祉の向上で未来100年の礎をすべて築く。信頼が崩れた体育会を立て直す。未来を導く呼び水の役割もいとわれない。疎通と和合の体育会を作る。過去100年は政府が主導したが、体育会が主導するようにする。活性化のためにも努力する」と述べた。

イギフン候補は「体育環境が劣悪である。現実に合致する処遇改善が必要である。地方教育予算配分のような土台を作らなければならない。一般学生がスポーツをしなければならない。健康な民主市民になれるようにしなければならない。EUはカバンのない日を作ってスポーツをするようにする。私たちもしなければならない。犯罪や逸脱などを防ぐことができる。KOCは大統合しなければならない」と話した。

最後にカン・シヌク候補は「大韓体育の未来100年を固めなければならない。賢明な判断をお願いする。真正性と意志がない薄っぺらな言葉遊びは窮地に追い込むだろう。今まで腐敗に対抗してきた。バランスのとれた視点を持っている。体育に進歩、保守がどこにあるのか。与も野もない。風が吹き始めた。最近外圧が多かった。3000万体育人を代表して出た。我々は愚かではない。共に立ち上がろう」と促した。

体育会専門家が見た討論会

ジャン・ジョンス会長（訳注：大韓職場体育会乗馬協会会長）は「4名の情熱的な議論と韓国体育発展のための部分をよく見えた。全体的に素晴らしいし多様な意見も出たが、重要なポイントが残念だった」と述べた。

続いて彼は「体育会長は予算を確保できるリーダーシップがなければならない。4000億ウォンからの配分を受けて国家体育奨励と国民の健康のための政策を展開しなければならない。福祉の向上は財政なしではだめだ。国会・政府とのコミュニケーションが必要な時だ。緊急体育支援金もよい案だ。現在、最も良い処方だと思う」と付け加えた。

ユン・ガンロ院長（訳注：国際スポーツ外交研究院）は「体育会とKOCは発展的に分離独立されなければならない。統合大韓体育会は余裕がない部分が多い。どっちつかずになる。4年前のKOC分離問題は今後議論することにした事案として持ち越されてきた課題である。いくつかの国の統合NOCの場合もNOCが中心軸で体育会が吸収されたものだが韓国は正反対で構成され、効率性と組織運営の効果の点で問題が発生する。現会長は、国際スポーツ界の経験とコミュニケーション及びネットワーキングの構築が不可欠であるスポーツ外交能力が不十分である。国際スポーツ界の人脈を広げ継続的に幅広く疎通する必要があるが、物足りなさが多い」とし「2032年ソウル-平壤オリンピック共同誘致成功のためには、実行可能な誘致必然性とグローバルオリンピックの遺産創出効果である、目に見える朝鮮半島平和定着効果などでIOCを説得してこそ可能となる。政府は4000億ウォンの予算を体育会に与えているので、管理・監督の意味を明らかにし、分

離された KOC はオリンピック憲章を遵守して徹底的に自律性を確保するということを明確にしなければならない」と述べた。

続いて彼は「現在も独立した組織ではない。体育会長に当選すれば文体部長官の承認を受けなければならない。体育会の役職員の組織改編も承認対象であり、予算など制度的に政府の監査対象団体であり、選挙もまた米国などの先進国のように自律的な方法ではなく、中央選挙管理委員会で進行する。独立した団体ではないし」と付け加えた。

彼は名誉職ではなく常勤職の変更も主張した。理由は「倫理意識に基づく無限責任」である。ユン・ガンロ院長は「今の体育会は責任を負う人がいない部分が問題である。米国の性暴力事件の場合、加害者に刑を執行して次々と辞退した。常勤職に変更し「無限責任」を感じるべきである。自信がなければ降りなければならない。体育人が皆見ている」と述べた。

予算と財政自立部分については、「現実合うようにしなければならない。政府・国会とのコミュニケーションや適材適所の支援人事の受け入れも必要だ。必須的な予算も受けながら、グローバルマインドに立脚した様々な財政の創出方法で徐々に財政自立を図るべき」と評した。

出典：<https://www.ajunews.com/view/20210110002705888>

大韓体育会長選挙関連

不正選挙情報提供案内

体育市民連帯は大韓体育会長選出選挙期間中に発生する

不法・不正選挙行為について情報提供を受け付けます。

公正で透明な選挙運動を通じて道徳的で信頼を受ける候補が選出されるよう

皆さんの積極的な情報提供をお願いします。

<情報提供事項>

- － 会長選挙管理規定を違反した選挙運動
- － 候補者誹謗、中傷、人身攻撃、名誉棄損、虚偽事実の流布、中傷宣伝など
- － 候補者の資質と道徳検証が必要な事項

電話 02-2279-8999 メール sports-cm@daum.net

※情報提供者の匿名性と身分は徹底的に保証されます。

スポーツ界人権侵害情報提供および支援活動案内



体育市民連帯は

「トライアスロン選手死亡事件共対委」と
「民主社会のための弁護士会スポーツ人権チーム」所属
10数人の人権弁護士の方々と一緒に
被害者相談および法律支援活動を行います。
スポーツ界人権侵害情報提供がされたら
初期相談を通じて法律支援が必要な方々を支援します。



下のアドレスに情報提供して下さい。

共同対策委員会



forsportsreform@gmail.com

体育市民連帯



sports-cm@daum.net

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

http://www.sportscm.org/index.php?module=Inquiry&action=SiteInquiry&sMode=INSERT_FORM&inquiryNo=2

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com